

2025年12月16日（火）【外為L a b】松田哲

タイトル：【今週末は、日銀政策決定会合】

今日は、12月16日なので、12月も月半ばになった。

来週は、クリスマスの週になる。

そういった時期ではあるのだが、今週末には、日銀の政策決定会合が12月18日、19日に控えている。

海外の市場参加者の多くは、既にクリスマス相場に入っているので、三々五々、相場から撤退して休暇を取る準備をしている、と思われるが、日本の市場参加者は、日銀政策決定会合を見てから、年末年始の準備に入ろう、と考えているのだろう。

今回（12月18日、19日）の日銀政策決定会合では、政策金利の0.25%の引き上げが、確実視されている。

もちろん、その発表までは確定ではないのだが、マーケット（金融市場）の読み通りに、0.25%利上げが実施されるのだろう、と考えます。

日銀の利上げが確実視される状況下で、長期金利の代表的指標である10年物国債利回りが、2.00%に迫っています。

利上げが実施されれば、その後の時間が経過すると、10年物国債利回りが2.00%を超えていく可能性は高い、と考えます。

さらに、日銀が来年（2026年）の金融政策で、利上げのスタンスを崩さない姿勢を示唆する可能性も高い、と考えます。

+++++++++++++++++++++

今回（12月18日、19日）の日銀政策決定会合が終われば、マーケット（金融市場、外国為替市場など）は、本格的なクリスマス相場の雰囲気になるのだろう、と考えます。

つまり、市場参加者が極端に少なくなり、市場価格がほとんど動かない状況になるのだろう、と考えます。

そういった本格的なクリスマス相場の時に、突発的なニュースが出ると、マーケット（金融市場、外国為替市場など）が、パニック状態になることがあります。

だから、本格的なクリスマス相場の時には、ポジションを小さくして、リスクをミニマイズしておくことはセオリーです。

今回（12月18日、19日）の日銀政策決定会合が終了すれば、今年（2025年）のマーケット（金融市場、外国為替市場など）は、ほぼ終了した状態になる、と考えます。

来年（2026年）に向けて、体力を温存して、充電に努める時期（年末年始）に入るのだ、と考えます。

+++++
+++++

（2025年12月16日東京時間14:05記述）